

令和2年度 第4回 小平市介護保険運営協議会 会議要録

1	開催日時	令和2年12月24日（木） 午後2時00分～4時00分
2	開催場所	福祉会館 小ホール
3	出席委員名 (敬称略)	井上斉、上原健嗣、小川容子、落合高幸、金子恵一、川上政子、久保田進、佐田恵子、清水太郎、下村咲子、林田良子、比留川実、松川茂雄、渡邊浩文
4	配付資料	<ul style="list-style-type: none"> (1) 令和2年度 第4回 小平市介護保険運営協議会 会議次第 (2) 資料1-1 国 基準所得金額の変更による標準段階対象者の変更（案） (3) 資料1-2 小平市 第8期介護保険料所得段階別試算（案） (4) 資料2 小平市地域包括ケア推進計画（素案）に対する市民意見公募の実施結果 (5) 資料3 地域密着型サービス事業所の新規指定について (6) 資料4 介護施設等におけるPCR検査費用の助成について (7) 資料5 総合事業の事業者指定状況について (8) 参考資料 事前質問への回答について
5	傍聴人数	1名
6	次 第	<ul style="list-style-type: none"> 1 開会 2 配付資料の確認 3 協議・検討事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 次期介護保険料について（資料1-1、資料1-2） (2) 小平市地域包括ケア推進計画（素案）に係る市民意見公募の結果速報及び今後の計画策定について（資料2） (3) 地域密着型サービス事業所の新規指定について （資料3） 4 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 介護施設等におけるPCR検査費用の助成について（資料4） (2) 総合事業の事業者指定状況について（資料5） 5 閉会

1 協議・検討事項

(1) 次期介護保険料について

委員：近年は共稼ぎ世帯が増え、仕事と介護の両立を図るために、日中の介護をデイサービスで対応したり、ショートステイを活用する傾向があるように感じる。施設への入所を望んでも、多床室は待機期間も長いこともあるため、在宅サービスを組み合わせたほうが、施設入所よりもコストが安いことから、施設入所より在宅サービスを利用する世帯が増えている感じを受ける。

また、在宅療養をする方も増えたように思う。これまでは最終段階を在宅で過ごされるという方というのは悪性腫瘍の方が多かったが、慢性疾患の方でも在宅で最後までという方が増えている。居宅療養管理指導や訪問看護、訪問介護を中長期にわたって利用される方が増えてきている感じを受ける。今後は地域医療構想が進んで病床数が減少するにつれて、在宅療法を選ぶ方、やむを得ない方がより増えてくるのではないかと。要介護状態の期間も長くなっており、ショートステイも利用頻度も上がっていると思う。

これまで医療保険で対応されてきた方が、介護保険に移行するという背景も給付費増につながっているのではないかと。その他、近年は家族の在り方が多様化し、サービスの使い方も多種多様になっている。

委員：新しい施設が市内にいくつかできたことで、一時的には待機の方は減る。ただ申込者数といっても、全員がすぐに入りたいという希望をお持ちなのではなく、将来に備えて申し込む方や、何か所も申込をされている方もいる。そのため待機されている方はそれほど多くはないと思う。また、要介護3以上の方が入所となるため、一時より在籍日数も少なくなっていることも待機者数や待機期間が少なくなっている要因としてあるのではないかと。

令和7年までに1か所整備するとのことだが、これ以上の整備は必要ないと感じるのが率直な意見。施設を開設するという事は、介護人材の問題がかなり重要になってくる。職員が足りなくて全部オープンできない現実もある。

市内サービス付高齢者向け住宅も開設するとの話もあり、入所施設ができていくこと等から、数的にはかなり足りてきている実感はある。

委員：新型コロナウイルス等で社会の状況が不安定な中、この先介護保険制度がどこまでもつのか。どこまで社会のことを想定しているのか。

事務局：ご指摘のとおり、今年は新型コロナウイルスにより、市民の皆様には様々な影響が生じていると捉えている。その中でも、収入の減少などの影響が出ている方もいると考えている。

こうした状況下で介護保険料が確保できなくなるのではというご質問かと受け

とめたが、保険者としては、介護保険制度を円滑に運用し、持続可能な制度を維持していくことが重要であると考えている。

要介護認定者数の増加に伴い給付費が増えていく中で、必要な保険料を確保していくことが重要であるが、一方で、新型コロナウイルスの影響により収入が減少した方については、介護保険料の減免を行っている。新型コロナウイルスにより生活が困窮した方について、介護保険料の減免等の財政的な支援を行うことも必要であると捉えている。

委員：年金のみが収入の者にとっては財政面での影響はない。健康で元気で年を重ねていくということが本当に重要だなということをしみじみ感じる。

委員：保険料について、近隣市の状況は。

事務局：小平市の第7期の介護保険料は5,300円、全国平均は5,869円。26市中、7番目に低い金額。26市の保険料の平均は5,575円のため、小平市の5,300円よりは高い。なお、東京都の平均は5,911円である。そのため、第8期で5,800円になったとしても26市の平均は保てると見込んでいる。

委員：介護予防に関して国が実施した「柏プロジェクトの取り組み」という本が出版され、書評も出されている。進んだ取組みを行う他市を学ぶことは、今後介護保険料を低く抑えるためにも重要であると思う。

(2) 小平市地域包括ケア推進計画（素案）に係る市民意見公募の結果速報及び今後の計画策定について

委員：約19万人いる市民のうち意見をされた人が4人と極めて少ないが、方法に問題はないのか。

事務局：パブコメを実施するにあたり、介護予防教室や認知症週間の際に周知を図った。ただ、引き続き多くの方に計画のことを知っていただく必要があるため、次回は周知方法などについて検討課題と考えている。

(3) 地域密着型サービス事業所の新規指定について

委員：登録定員25人、内訳として、通いが15人、宿泊が8人とする25人にはならないが、どういう意味なのか。

事務局：看護小規模多機能型居宅介護としての登録の人数は25人まで。このサービスは通いと宿泊と訪問の3つがあり、通いは一日あたり15人、宿泊サービスの利用は8人までということの意味している。

2 報告事項

(1) 介護施設等におけるPCR検査費用の助成について

委員：補助が受けられる施設が限られているが、訪問系のサービスにおいても、ご利用者様のお宅に伺うときに、マスクをはずして口腔ケアをしたり吸引作業をするときにかなりリスクが高い場合があるため、今後、在宅サービスも補助対象とするよう検討していただきたい。

事務局：東京都の補助金の関係で訪問系は補助対象外としたが、今後、市で検討させていただきたい。

委員：PCR検査の助成はありがたい。先ほど委員からの意見もあったが、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所も対象としてほしい。ただ、検査に積極的な施設は非常に少ないので、法人の判断ではあるが、市のほうでも周知に努めてほしい。

委員：申請はどのくらいあったのか。

事務局：事業所への周知が12月のため、今のところ申請は来ていない。

委員：市内の介護施設でクラスターが発生した場合、公表はしているか。

事務局：市の指針に基づき必要な情報は公表していく。なお、公表にあたっては感染者等の特定による偏見・差別、誹謗中傷や風評被害等が生じることのないよう個人情報等に配慮し、施設や利用者等に対する人権侵害への影響等に十分留意する。

(2) 総合事業の指定状況について

〔質疑応答〕

なし